

平成25年度

第21回 河内長野市地域公共交通会議次第

日時 平成26年3月11日（火）

午前10時30分から

場所 河内長野市役所 602会議室

1. 開会

2. 議題

- （1）楠ヶ丘地域乗合タクシーのアンケート結果等について
- （2）「平成26年度河内長野市地域公共交通会議予算」（案）について
- （3）「生活交通改善事業計画（利用環境改善促進等事業）」（案）について
- （4）平成25年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について
- （5）その他

3. 閉会

楠ヶ丘地域乗合タクシーの アンケート結果について

- 実施期間：平成25年12月～平成26年1月
- 1世帯に1枚配布

	楠ヶ丘	烏帽子台	あおぞら 自治会	住所 無回答	合計
配布数 (世帯数)	788	180	23	-	991
回収数	435	55	11	29	530
回収率	55.2%	30.6%	47.8%	-	53.5%

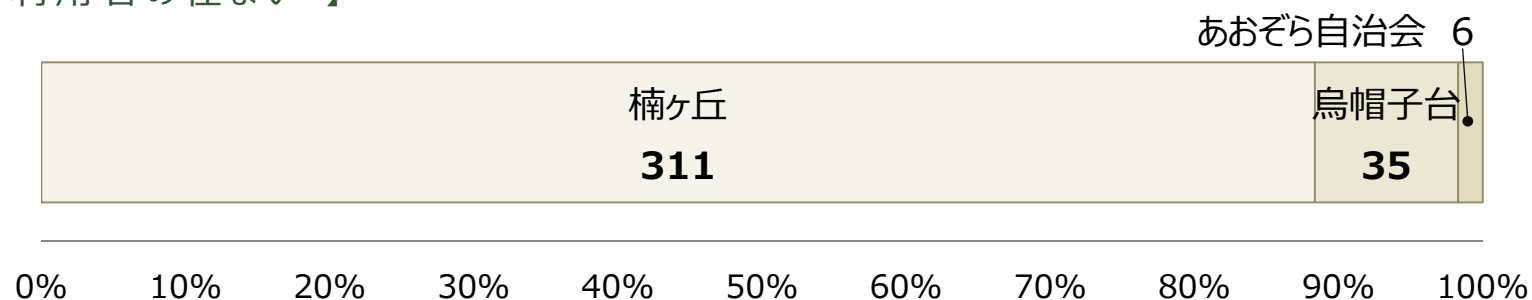
運行ルート図



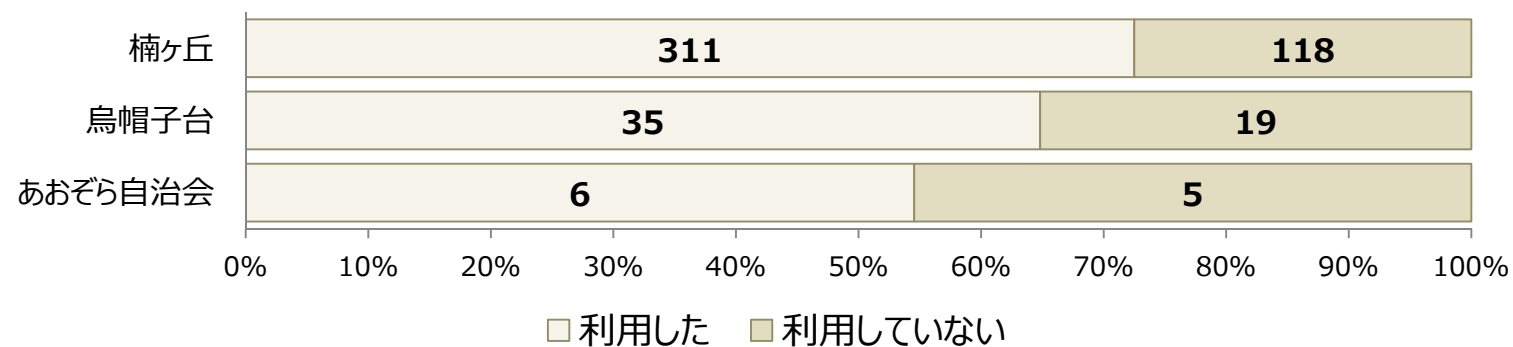
① くすまの利用状況

利用状況（住所別）

【利用者の住まい】



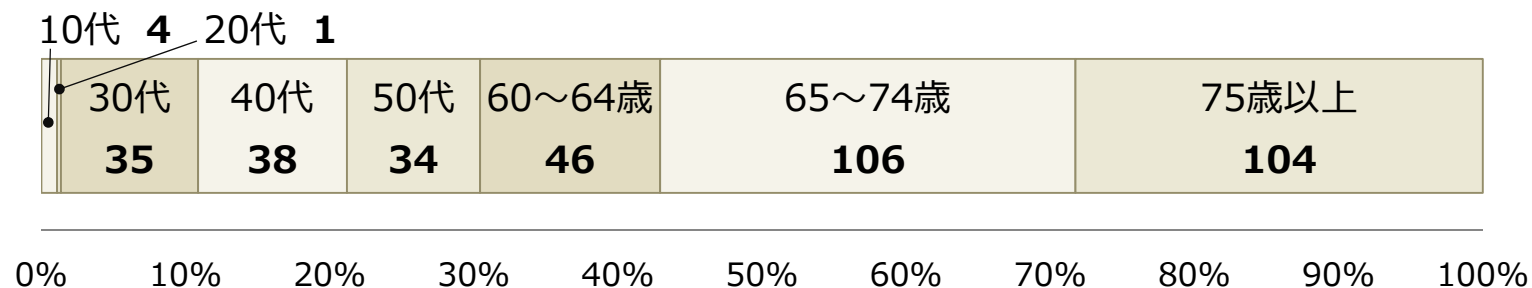
【利用の有無】



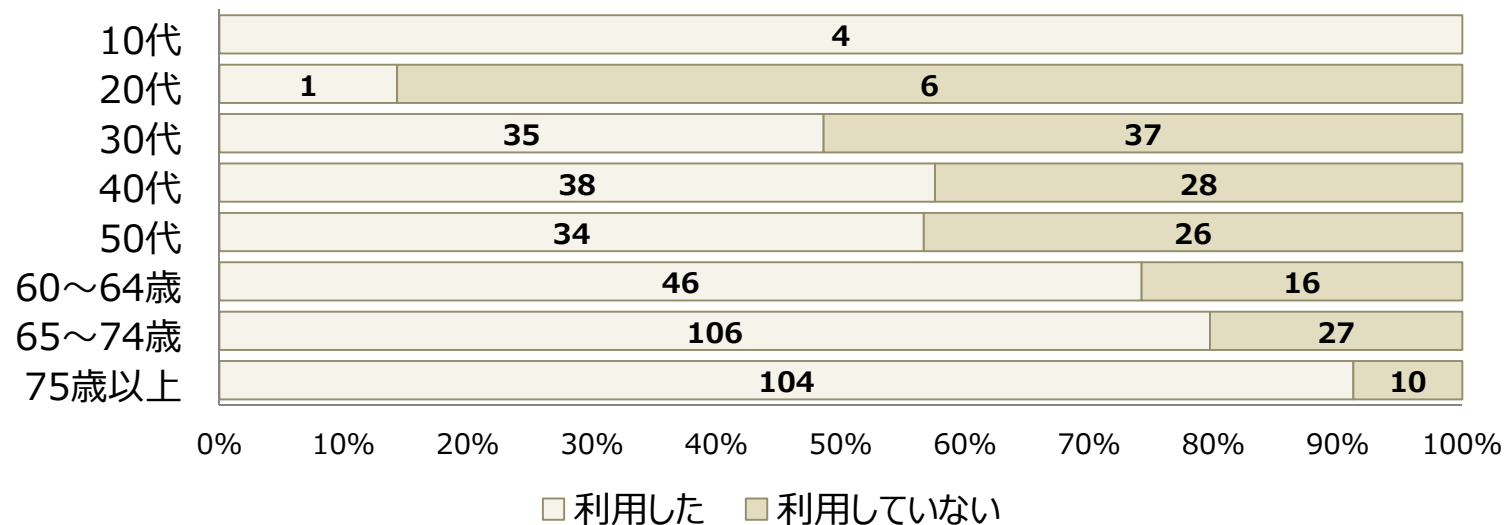
利用者の9割が楠ヶ丘地域の方であるが、他地域においても、半数以上の方が利用している。

利用状況（年齢別）

【 利用者の年齢 】



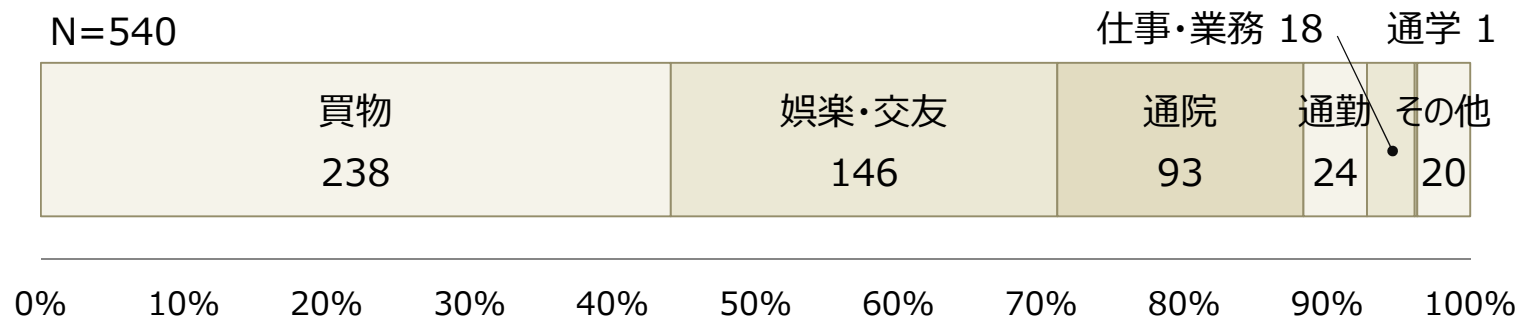
【 利用の有無 】



利用者の半数以上が高齢者であり、高齢者の方ほど、利用する割合が多い。

利用目的について

【 利用目的 】



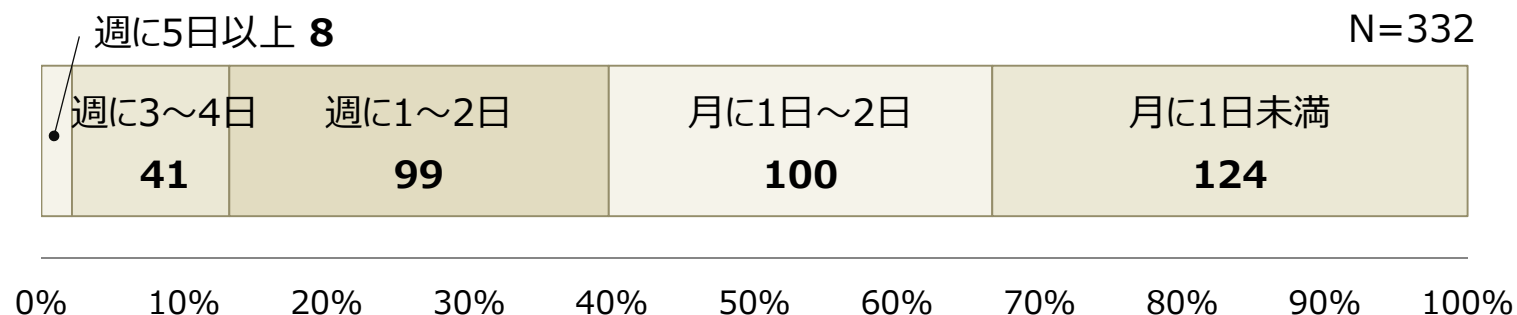
【 年齢別の利用目的 】



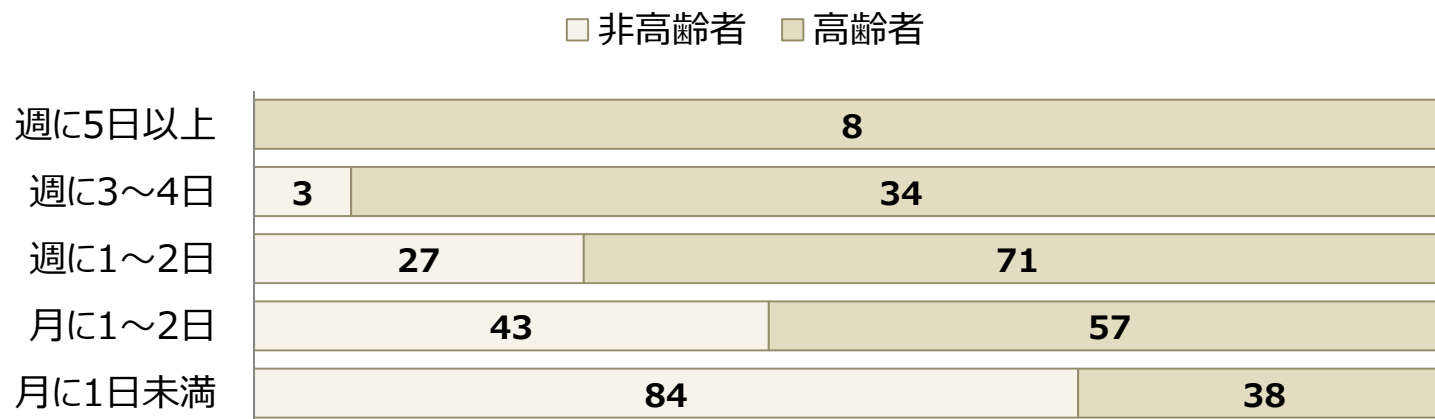
全体の利用目的としては、「買物」「娯楽・交友」が多く、
高齢者の利用目的としては、通院が多くなっている。

利用頻度について

【 利用頻度 】



【 年齢別の利用頻度 】



月に2日以下の利用者が多く、高齢者の方ほど、利用する頻度が多い。

② 高齢者等の外出増加率

$$\begin{array}{l} \text{外出増加率（人数）} \\ \parallel \\ \frac{\text{「外出が増加した」} \\ \text{と回答した人数}}{\text{全利用者数}} \end{array} = \begin{array}{l} \text{H23年度：22\%} \\ \text{H24年度：30\%} \\ \text{目標：30\%以上} \\ \mathbf{13.4\%} \end{array}$$

アンケート調査では、「くすまの運行前と比較して」という聞き方をしている。

- 回答者にとっては答えにくい。
- 前回アンケート時と比較して回答された、ということも考えられる。
- 来年度のアンケートでは、「前年度との比較」への変更も検討。
それに伴い、評価指標の変更も検討する必要がある。

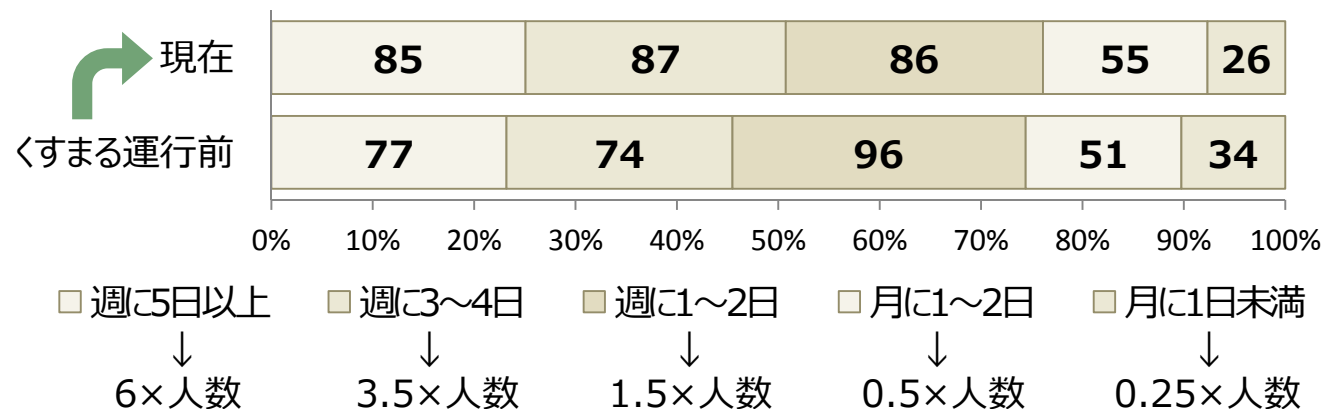
外出が増加した人数の割合を評価指標としてきたが、

全体の外出頻度の増加量を算出するために、

外出頻度 × 人数による外出増加率への変更も検討。

【 くすまの運行前と現在の外出頻度 】

1週間当たりの
外出のべ回数



= 977.5

= 899

外出増加率（回数）

=

現在の
外出頻度 × 人数

以前の
外出頻度 × 人数

=

8.7 %

③ 車・バイク等からの乗り換え率

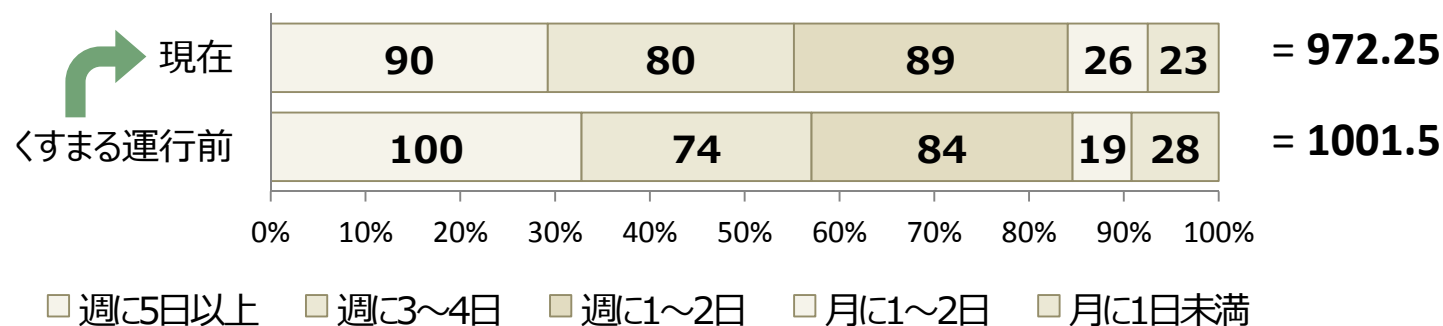
$$\begin{array}{c}
 \text{乗り換え率（人数）} \\
 \parallel \\
 \frac{\text{「車・バイク等に乗る回数が減った」と回答した人数}}{\text{全利用者数}} = 10.5\%
 \end{array}$$

H23年度：20%
H24年度：19%
目標：20%以上

「くすまの運行前との比較」
↓
「前年度との比較」
への変更を検討

【くすまの運行前と現在の車・バイクに乗る頻度】

1週間当たりの
車・バイク利用のべ回数



$$\begin{array}{c}
 \text{乗り換え率（回数）} \\
 = \frac{\text{現在の車・バイク等に乗る頻度} \times \text{人数}}{\text{以前の車・バイク等に乗る頻度} \times \text{人数}} = 2.9\%
 \end{array}$$

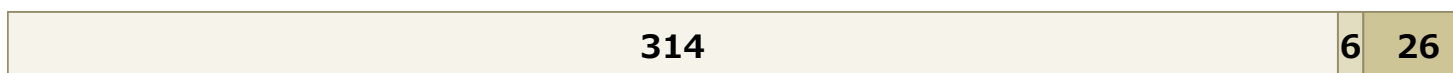
④ 利用者の意識について

【 くすまるを利用する理由 】

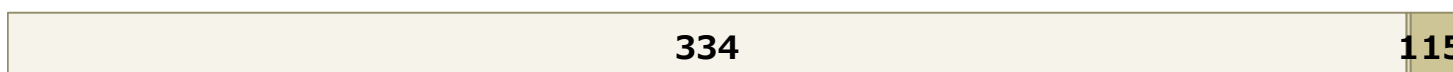
- **現在の自分**にとって必要な移動手段のため



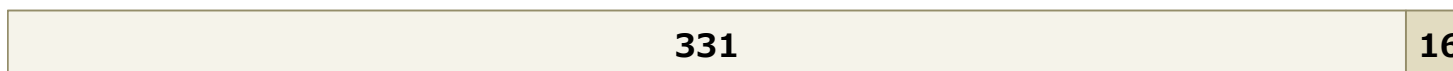
- **将来の自分**にとって必要な移動手段であり、運行を維持するため



- **現在の地域住民**にとって必要な移動手段であり、運行を維持するため



- **将来の地域住民**にとって必要な移動手段であり、運行を維持するため

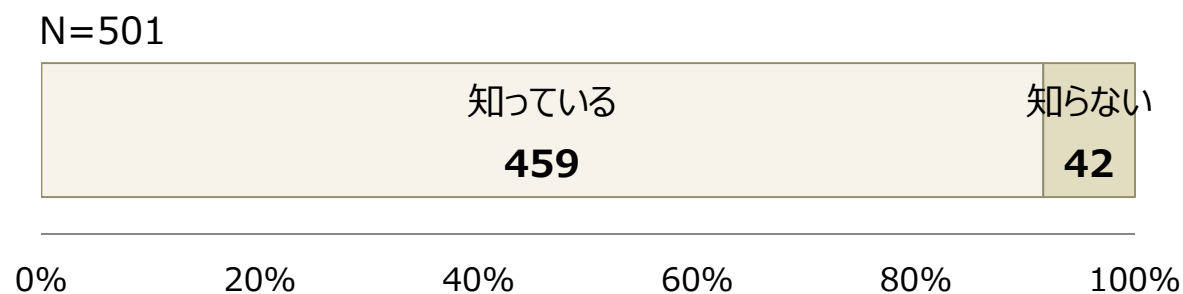


☐ そう思う ☐ そう思わない ☐ どちらでもない

将来の自分に必要、地域住民にとって必要という声が多かった。
また、現在自分には必要ないが、運行維持のため利用しているという声もあった。

⑤ 取組みの認知度について

【地域の公共交通について、住民・事業者・市が協働で取り組んでいることを知っているか】



認知度

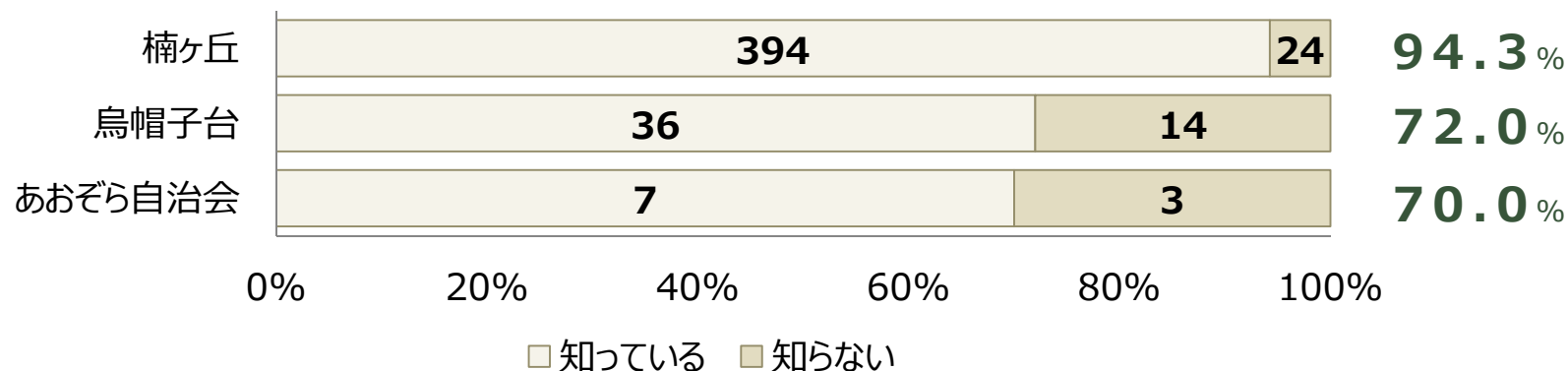
91.6%

H24年度：73%

H23年度：69%

目標：70%以上

【住所別】



今後は、他地域の認知度の向上を図っていく必要がある。

資料1-2

楠ヶ丘地域乗合タクシー「くすまる」の運行に対する評価・見直しの指標（案）

基準項目	指標	目標 【試行運行時】	結果 【試行運行時】	目標 【平成25年度】	結果 【平成25年度】 （4月～1月）	目標 【平成26年度】
利用状況	1便あたり利用者数	6人以上	4.3人	4.0人以上	4.6人	4.6人以上
事業効果	高齢者等の外出増加率（人数）	50%以上	約37%	30%以上	13%	30%以上
	高齢者等の外出増加率（回数）	-	-	-	9%	10%以上
	車・バイク等からの乗り換え率（人数）	20%以上	約26%	20%以上	11%	20%以上
	車・バイク等からの乗り換え率（回数）	-	-	-	3%	10%以上
地域の主体性	地域検討委員会等の開催数 （ワークショップ開催など）	年間6回以上	11回 （4月～12月）	年間6回以上	4回 （＋利用状況の報告 等を毎月実施10回）	年間6回以上
認知度	地域での取り組みの事業の認知度	80%以上	約70%	70%以上	92%	100%
	他地域での認知度	-	-	-	72%	80%
収支状況	収支率（運賃収入／運行経費）	50%以上	43%	65%以上	75%	75%以上
					アンケート数値	

くすまるに関する アンケート調査結果

平成25年12月～平成26年1月

配布 : 1世帯1枚 (**991**世帯)

回収 : **530**枚 (回収率 : **53.5**%)

問 1

回答者自身について

1

性別

N=516

女性
397

男性
119

0%

20%

40%

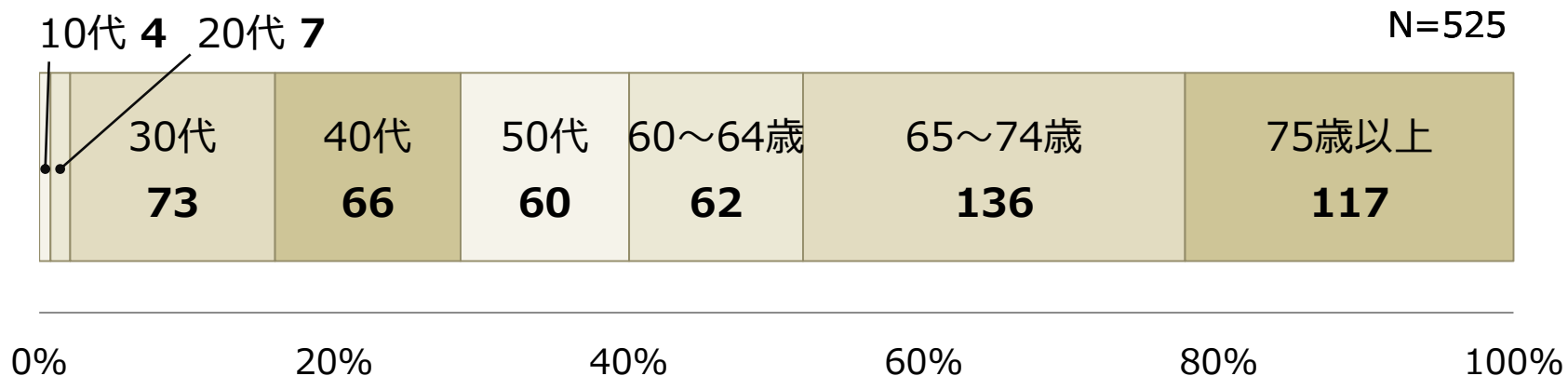
60%

80%

100%

2

年齢



3

住所



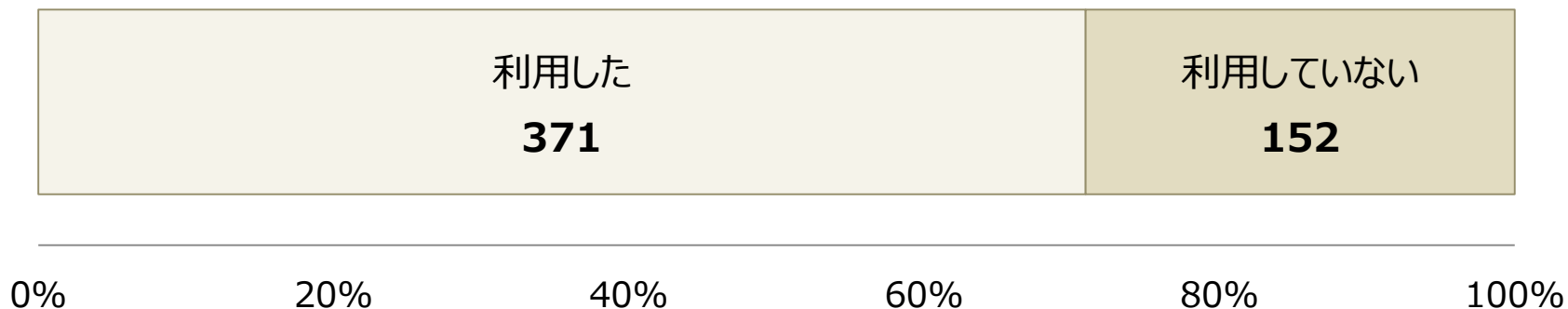
問 2

乗合タクシーの利用について

4

くすまるを利用しましたか？

N=523



5

どのような目的で利用しましたか？

N=540

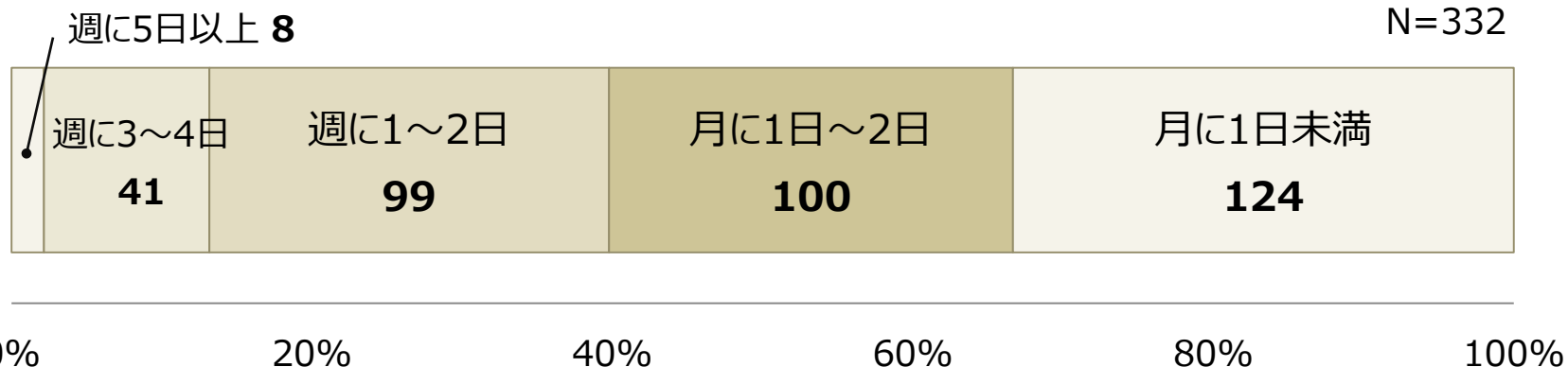
仕事・業務 18 通学 1



6

どのくらいの頻度で利用しましたか？

N=332

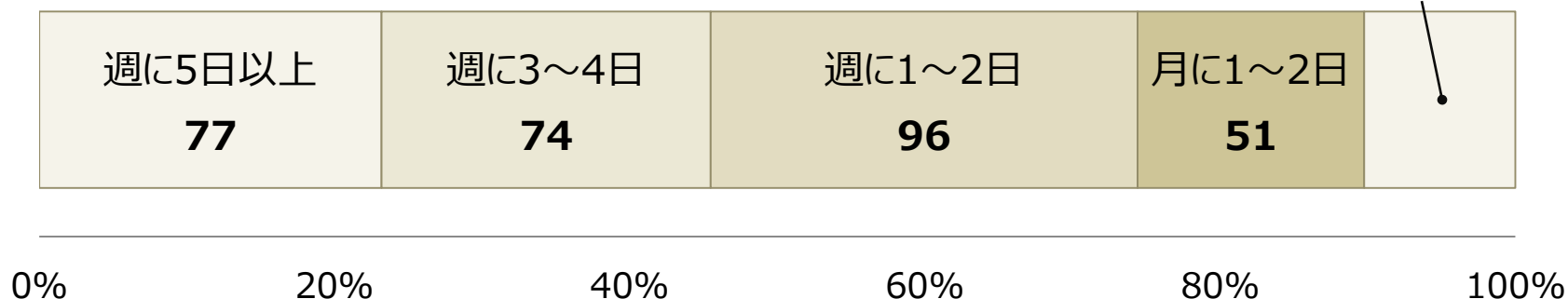


くすまろが運行する前と現在の “外出する頻度”はどの程度ですか？

【運行前】

N=332

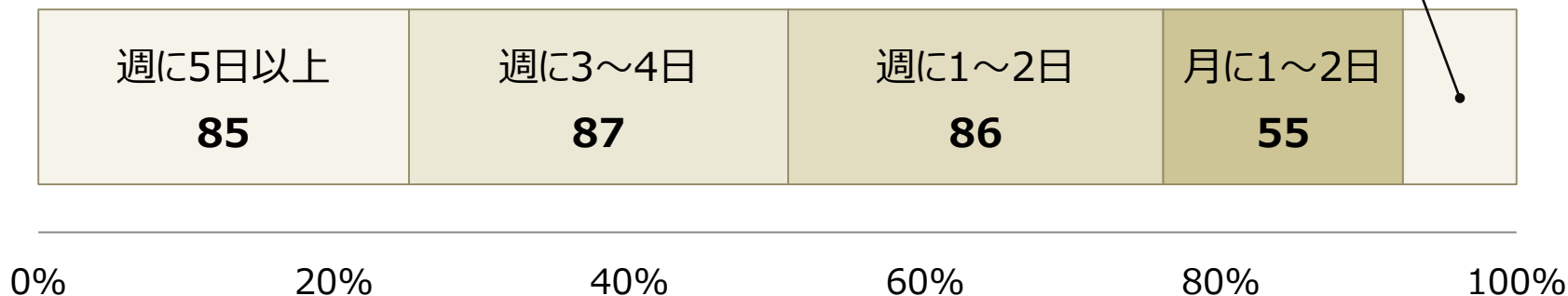
月に1日未満 34



【現在】

N=332

月に1日未満 26

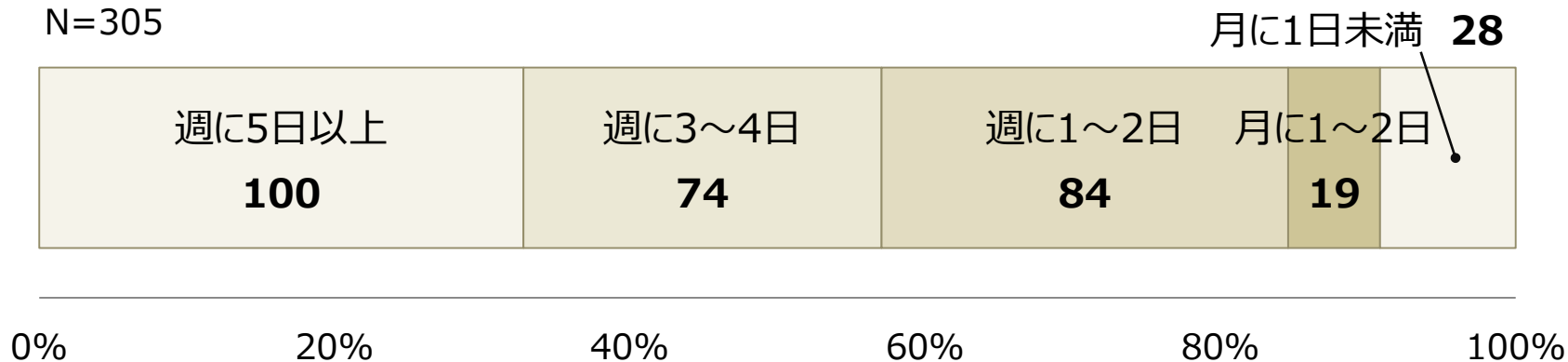


8

くすまろが運行する前と現在の “自動車・バイクに乗る回数”はどの程度ですか？

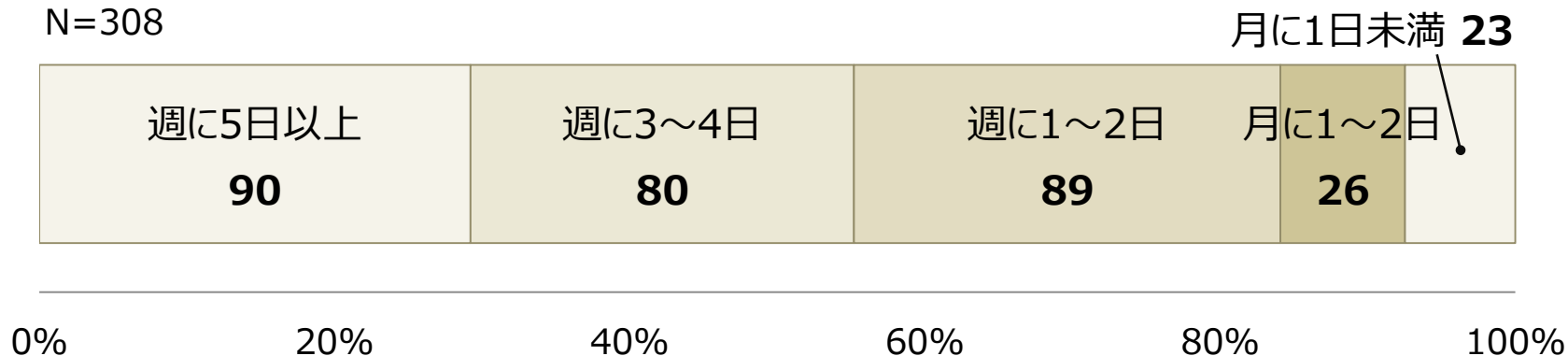
【運行前】

N=305



【現在】

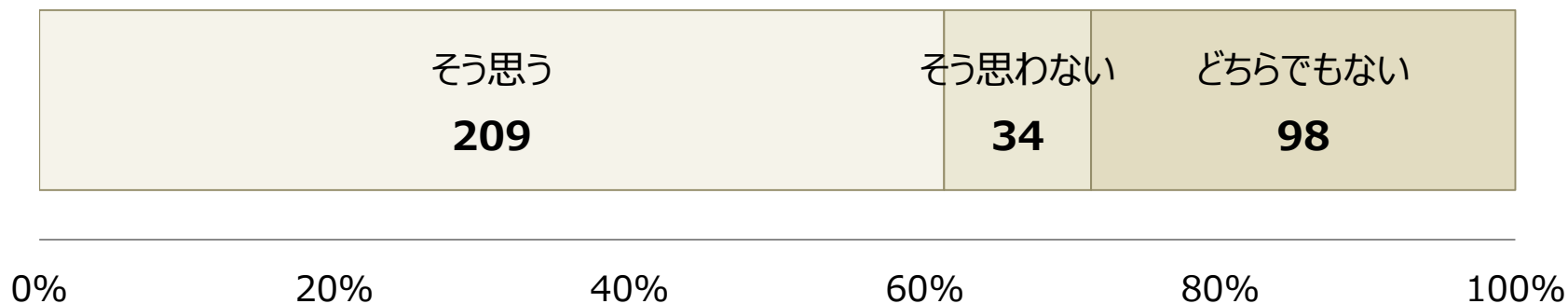
N=308



あなたはなぜくすまるを利用しているのですか？

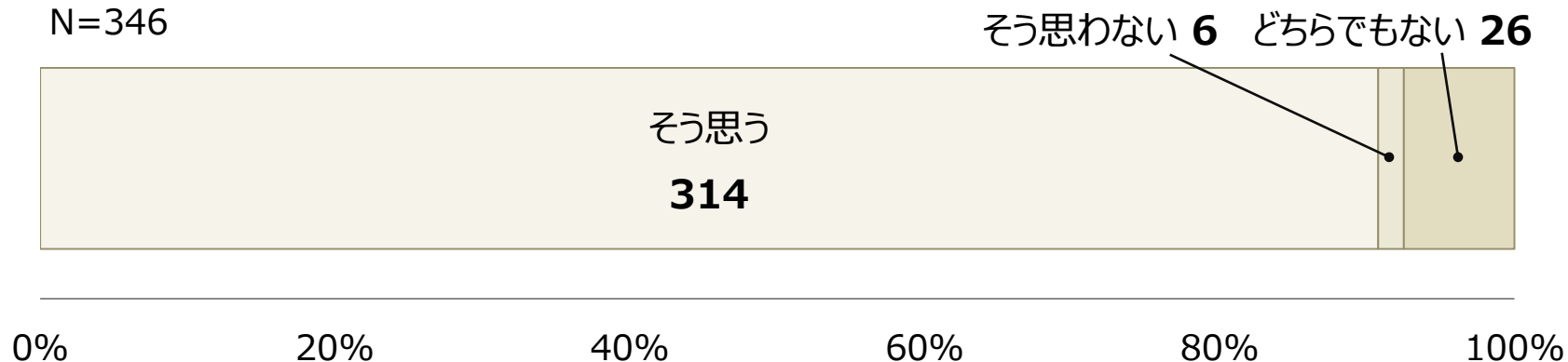
【現在の自分にとって必要な移動手段だから】

N=341



【将来の自分にとって必要な移動手段であり、運行を維持するため】

N=346



あなたはなぜくすまるを利用しているのですか？

【現在の地域住民にとって必要な移動手段であり、運行を維持するため】

N=350

そう思わない 1 どちらでもない 15

そう思う
334

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【将来の地域住民にとって必要な移動手段であり、運行を維持するため】

N=347

そう思う
331

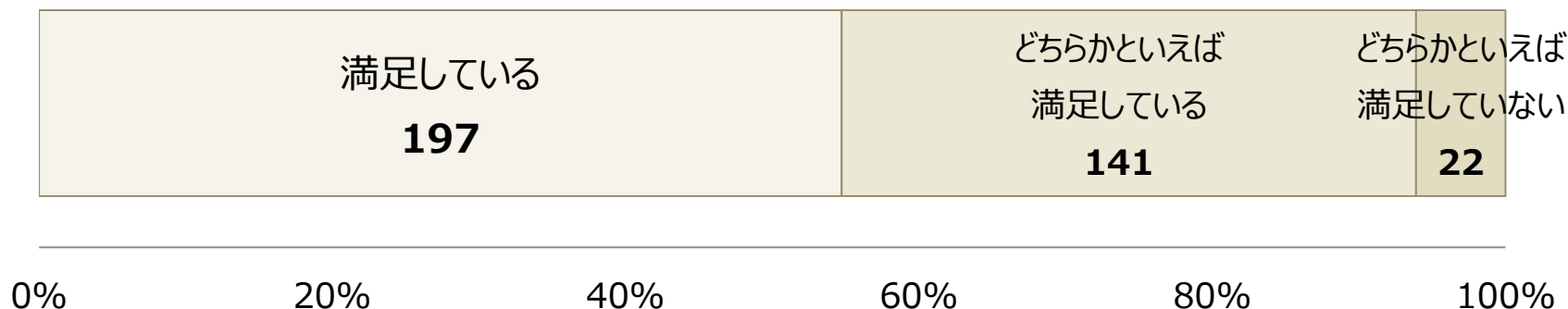
どちらでもない
16

0% 20% 40% 60% 80% 100%

10

くすまるの運行について、満足していますか？

N=360



11

くすまるのサービスについて、改善すべきこと。

もう少し遅い時間まで運行してほしい。

45 名

- ・子どもの塾の帰り
- ・通勤帰り

運行の時間帯を拡げてほしい。

24 名

- ・通学、通勤時間帯の運行

運賃を下げてほしい。

21 名

- ・おとな100円
- ・1周400円を200円に

休憩時間帯に運行してほしい。

16 名

停留所を増やしてほしい。

11 名

- ・1区に停留所追加
- ・烏帽子台の停留所増設

回数券やカード等のサービス

9 名

- ・子どもの回数券
- ・回数券の通常販売

運行ルートの改善

7 名

- ・1区へ延伸
- ・複数ルート
- ・逆ルート

フリー乗降にしてほしい。

6 名

南海電車との連携（特に夕方）

5 名

乗務員の対応（雑談など）

4 名

割引制度の導入

3 名

- ・モックルとの乗継割引
- ・買物割引券

P R の充実

3 名

- ・三日月町駅、フォレストでのPR充実

その他

16 名

- ・混雑で乗車できない
- ・デマンド方式の導入
- ・雪の日の運行
- ・増便

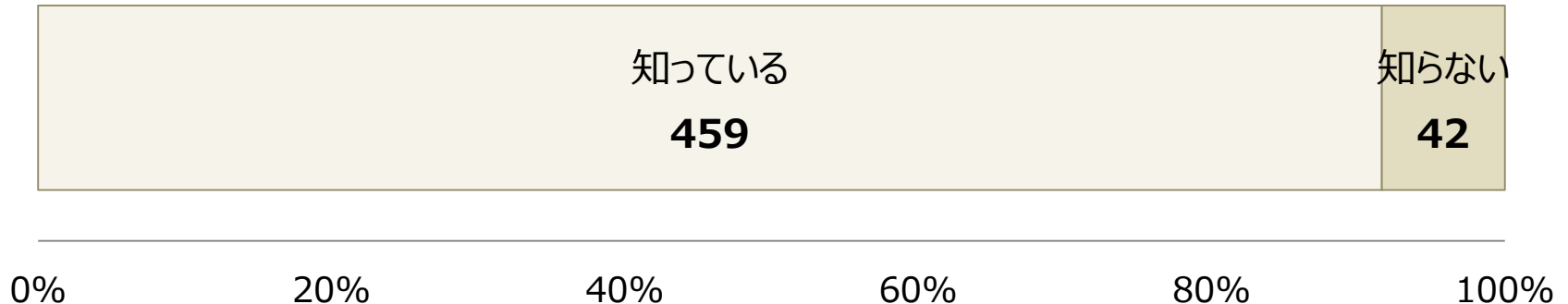
問 3

地域の公共交通の取組みについて

12

地域の公共交通を確保するため、住民・第一交通・市が協働で取り組んでいることを知っていますか？

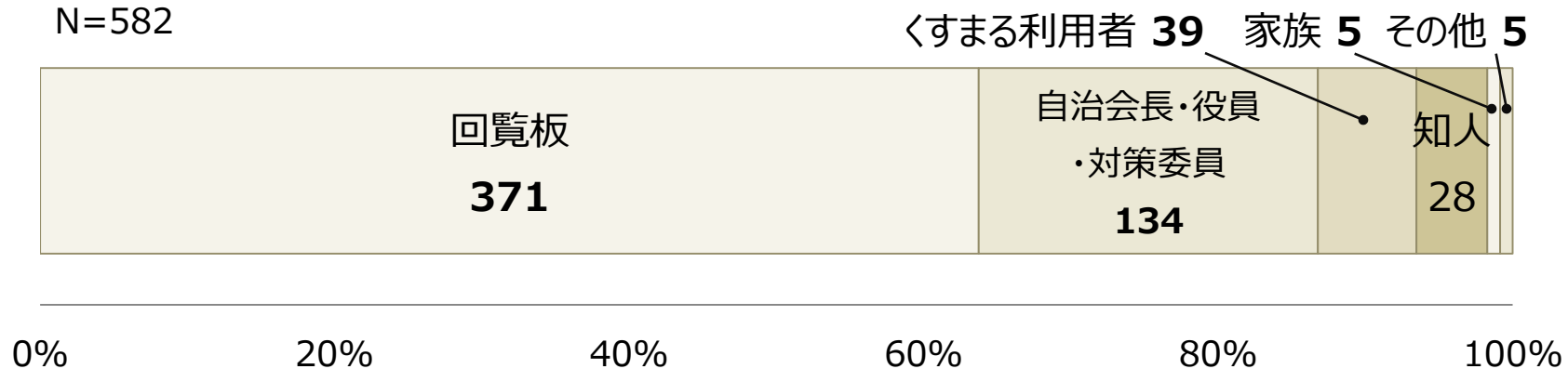
N=501



13

取組みを何で（誰から）知りましたか？

N=582



問 4

くすまるに関する意見、感想について

要望、提案について

40 名

- ・三日市駅周辺の施設に、くすまるの時刻表を配布してはどうでしょうか。特に医療機関は、公共交通を利用して通院することが多いので、さらなる利用を促すために施設に時刻表を配布しては、と思います。
- ・今回のアンケートだけを回覧するだけでなく、ルート、運賃、最近の利用状況、収益等がわかる資料、チラシと一緒に回覧して頂きたいです。

今後の運行継続について

34 名

- ・楠ヶ丘に公共交通を作っていただき、本当に喜んでいます。今後も継続していただけるよう私たちの協力することがあれば言ってほしいです。

- ・私達高齢者にとって唯一の移動手段です。通院、買物と大助かりで感謝しております。運行を一日も長く続けていただくことを願います。

乗務員について

18 名

- ・親切で思いやりのある二人の運転手さんに感謝です。
- ・運転手さんはとても親切で信頼できます。
- ・運転手さんも優しく、乗り込むときに手伝ってくれたり、踏み台を出してくれる等感謝しています。乗る頻度は少ないですが、助かっています。

くすまの運行について

13 名

- ・乗り降りにみなさん協力しているのが気持ちいい。
- ・知らなかった人と話したり、親切にしてくださいましたよかったです。

その他について

18 名

- ・将来的には利用したいと思っています。

資料2-1

平成26年度 河内長野市地域公共交通会議予算（案）

歳入予算額 10,073,000 円
 歳出予算額 10,073,000 円
 差 額 0 円

1 歳入

（単位：千円）

款 項 目	予算額	説 明
1 負担金		
1 負担金		
1 負担金		
2 補助金	10,072	
1 補助金	10,072	
1 補助金	10,072	国補助金、河内長野市補助金
4 諸収入	1	
1 諸収入	1	
1 雑入	1	預金利子
合 計	10,073	

2 歳出

（単位：千円）

款 項 目	予算額	説明
1 運営費	50	
1 会議費	0	
1 会議費	0	
2 事務費	50	
1 事務費	50	
2 事業費	10,022	
1 事業費	10,022	バス利用の手引き・バスマップの作成、配布、モックルコミュニティバス上限200円運賃の事業費など
1 事業費	10,022	
3 予備費	1	
1 予備費	1	
1 予備費	1	
合 計	10,073	

平成26年度地域公共交通会議予算（案）の詳細

資料2－2

メニュー	内容	総事業費	国補助（※地域公共交通会議への歳入）	市補助	積算根拠		
公共交通利用促進の啓発	バス利用の手引き・バスマップの作成、配布	2,000,000	1,000,000	1,000,000	原稿作成、印刷		
観光との連携	観光資源と路線バスを活用した取り組み（チラシの作成、配布など）の実施				観光モデルルートの検討 バス停位置の現状把握と検討		
福祉との協力	モックルコミュニティバスと福祉施設送迎バスとの乗り継ぎ				現状把握及び可能性の検討、時刻表等の印刷費など		
利用促進及び自主財源の確保（モックルコミュニティバス、日野・滝畑コミュニティバス）	有料広告を掲載した時刻表・ルート図の作成、配布	460,543	230,271	230,272	広報紙への折込費用：9円（平成25年度）×47,381世帯（※平成25年10月末の世帯数は47,306であり、毎月増加している。）×1.08（消費税）＝460,543円		
乗車運賃の割引	上限200円運賃の他路線（千代田線）への展開	1,511,000		1,511,000	上限200円運賃実施に伴う減収額の補填費用及び大阪南医療センター正面玄関延伸に伴う追加費用：1,511,000円		
乗車運賃の割引	モックルコミュニティバス上限200円運賃の試行運行 ※上限200円運賃の実施に伴う経費増加分を補助	1,369,000		1,369,000	運行経費	27,352,000	平成26年度見積り額
					運賃収入	9,050,702	平成26年度収入予想額
					差額	18,301,298 ≒18,400,000	18,400,000（H26赤字額）-17,031,000（市負担額） =1,369,000（交通会議負担額）
乗車運賃の割引	同伴者割引の試行	385,000		385,000	試行期間（12ヶ月間）での負担額：日曜日の日数（52日）×日曜日1日あたりの利用者数（100人※H24年度）×148円（平成24年度平均単価）×1/2（同伴者無料のため）＝384,800円≒385,000円		
運行ルートの見直し（日野・滝畑コミュニティバス）	地域活性・交流拠点をまわる運行ルート	1,296,000		1,296,000	初年度発生経費：1,296,000円 （停留所新規設置費用、駅前看板、車内表示、音声データ、定期券発行機等の改修）		
事務費	事務費	50,000		50,000			
第3期地域公共交通総合連携計画作成費	委託費	3,000,000	3,000,000	資料・議事録の作成費など			

合計

10,071,543

↓※+予備費：1,000

10,072,543

1,230,271

↓※+諸収入：1,000

8,842,272

8,841,272

↓※+諸収入：1,000

8,842,272

様式第 5-13 (日本工業規格 A 列 4 番)

第 号
平成 年 月 日

国土交通大臣 殿

住 所 大阪府河内長野市原町一丁目 1 番 1 号
氏名又は名称 河内長野市地域公共交通会議 印
会 長 向 井 一 雄

平成 26 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
(地域協働推進事業) 交付申請書

平成 26 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域協働推進事業)金 1,230,271 円を交付されるよう、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和 30 年法律第 179 号)第 5 条の規定に基づき、別紙関係書類を添えて申請します。

平成 2 6 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
(地域協働推進事業) 交付申請事業

補助対象事業者名 河内長野市地域公共交通会議

(単位 : 円)

補助対象事業の 名称及び内容	補助対象事業の 着手及び完了予定日	補助対象経費	補助金額
(名称) ・公共交通利用促進の啓発事業 (内容) ・バス利用の手引き・バスマップの作成、配布 ・企画乗車券の周知・広報 ・有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図の作成、配布	(着手予定日) 交付決定日以降 (完了予定日) 平成 2 7 年 3 月 3 1 日	2, 460, 543	1, 230, 271
合 計		2, 460, 543	1, 230, 271

(添付書類)

- (1) 認定を受けた地域協働推進事業計画の写し
- (2) 地域協働推進事業の実施に関する計画
- (3) 補助対象経費の算出根拠
- (4) その他補助金の交付に関して参考となる書類

地域協働推進事業の実施に関する計画

1. 地域協働推進事業の内容	
事業の名称	事業の内容
バス利用の手引き・バスマップの作成、配布	河内長野市地域公共交通会議において、平成 25 年度の実績を踏まえ、協議・検討を実施し、作成、配布する。 印刷枚数は 70,000 部（1 部 4 枚綴り）を予定し、駅、公共施設、観光施設、病院や転入者の窓口などにて配布する。
企画乗車券の周知・広報	バスの利用促進を目的としたフリー乗車券の広報のため、乗車券有効区間を示したマップや沿線の観光情報及びモデルルートに加え、沿線観光施設などでの特典を記載したチラシを作成、配布する。 印刷枚数は 5,000 部を予定し、駅、観光案内所、観光施設、公共施設などにて配布する。
有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図の作成、配布	有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表及びルート図などを作成し、広報紙に折り込み全戸配布する。

2. 年度スケジュール				
以下項目別に概ねの着手・実施期間を矢印（←→）、または横棒線（———）で記載。				
事業の名称	4 月	9 月	12 月	3 月
バス利用の手引き・バスマップの作成、配布				
企画乗車券の周知・広報				
有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図の作成、配布				

3. 予算計画			
事業の名称	補助対象経費 (見込み)	国費 (見込み)	地域の負担 (見込み)
バス利用の手引き・バスマップの作成、配布	1, 9 4 8 千円	9 7 4 千円	9 7 4 千円
企画乗車券の周知・広報	5 2 千円	2 6 千円	2 6 千円
有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図の作成、配布	4 6 0 千円	2 3 0 千円	2 3 0 千円
小計	2, 4 6 0 千円	1, 2 3 0 千円	1, 2 3 0 千円

平成 26 年 月 日
 （名 称） 河内長野市地域公共交通会議
 （代表者名） 会長 向井 一雄

1. 生活交通改善事業計画の名称

河内長野市地域公共交通バリア解消促進計画

2. 利用環境改善促進等事業の目的・必要性

キャッシュレス時代に対応した、より便利な運賃支払いシステムを整備することで、『バスの利用促進』、『利便性の向上』を図ることを目的として、交通系 IC カードシステムの導入を促進する。

平成 25 年 3 月 23 日から主要な交通系 IC カードの全国相互利用が実施されており、それらの IC カードで全国の交通機関を利用したいという利用者ニーズは一層高まることが想定される。

また、南海バス株は、市内の鉄道路線へ結節する交通機関として路線網を形成しているが、関係する鉄道事業者は交通系 IC カードシステムを既に導入しており相互利用にも対応していることから、バス事業者が行う IC カードシステムの導入を促進し、市民がより利用しやすくなるよう、公共交通の利便性向上を目的とする。

3. 利用環境改善促進等事業の目標及び効果

（１）事業の目標

○IC カードを使える設備環境を整える。

- ・スルッと KANSAI の PITAPA をはじめとする全国相互利用 IC カードへの完全対応
- ・ハウス IC カードにも対応したシステムをあわせて導入し、独自の運賃サービスを展開

（２）事業の効果

IC カードによる運賃決済は、他の手段（磁気カード等）と比較して所要時間が半分程度となるため、バス停留所での乗降にかかる時間が短縮され、道路混雑の解消や、事故の防止につながる。

また、全国相互利用対応の IC カードシステムを導入することにより、主要な交通系 IC カードで、スルッと KANSAI エリアのほか、ほぼ全国をカバーする他社局の鉄道・バスが利用できるようになるため、乗車や乗換のつど発生する「乗車券の購入」や「整理券の確認・運賃支払い」の時間・手間がなくなり、『公共交通の利用促進』、『公共交通の利便性の向上』を図ることが可能となる。

4. 利用環境改善促進等事業の内容と当該事業を実施する事業者

事業の内容：実施事業者（補助対象事業者）

◎事業内容：IC カードシステムの導入

IC 対応運賃箱、IC 乗車口リーダー、営業所端末、精算機、簡易解錠機、窓口端末、バスサーバ、ハウスサーバ、サーバラック、集計機、エンコーダ機、係員処理端末、開発費、ハウス IC 積増機、発売窓口端末等

◎対応カード

- ①全国相互利用対応の交通 IC カード
- ②独自ハウス IC カード
 - ・ 特定時間帯の運賃割引等

◎実施事業者：南海バス株式会社

(公共交通以外の波及効果) ◎消費活動の利便性向上、都市観光周遊や地域の観光振興に寄与 ・多くの IC カードが電子マネー機能を備えており、多目的な利用が可能
(事業を実施すべき緊急性) 近畿圏の鉄道がほぼ IC 化を実施済みであり、かつ主要な交通 IC カードの全国相互利用が実施されていることから、鉄道に結節し端末交通である南海バスの路線網もこの時期に IC 化を図り、沿線の利用者が公共交通を利用しやすい環境づくりを行う必要がある。

5. 利用環境改善促進等事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

26年度（当該年度）					
事業の名称	総事業費 割合	国費 割合	都道府県負担 割合	市区町村負担 割合	事業者負担 割合
IC カードシステム の導入	49,604 千円	16,535 千円	千円	11,427 千円	21,642 千円
	100%	33.3%	%	23.0%	43.6%
合 計	49,604 千円	16,535 千円	千円	11,427 千円	21,642 千円
	100%	33.3%	%	23.0%	43.6%

※総事業費については見込み額を記載

6. 計画期間

以下項目別に概ねの着手・実施期間を矢印（←→）、または横棒線（——）で記載。
●で年度ごとの事業着手日、事業完了日を記載

事業の名称	平成26年度				平成27年度				平成28年度			
	4月	9月	12月	3月	4月	9月	12月	3月	4月	9月	12月	3月
IC カードシステム の導入												

7. 協議会の開催状況と主な議論

・平成26年3月
河内長野市地域公共交通会議において計画の内容を審議

8. 利用者等の意見の反映

・平成26年2月
南海バス株式会社のホームページにて本計画に関する意見聴取を実施

9. 協議会メンバーの構成員

関係都道府県	大阪府
関係市区町村	河内長野市（都市建設部交通政策課）
交通事業者・交通施設管理者等	南海バス株式会社
地方運輸局	近畿運輸局大阪運輸支局
その他協議会が必要と認める者	

ＩＣカードシステムの導入について 皆さまのご意見をお寄せ願います。

いつも南海バスをご利用頂き、ありがとうございます。

南海バスでは、更なるサービス向上を図るため、市民やビジネス・観光等の利用者に対して、誰もが使いやすいバス交通の実現を目標に掲げ、バスの利便性の向上による利用促進及び移動の円滑化を図ることを目的として、国や関係自治体等と協力しながら『ＩＣカードシステム』の導入を計画しております。

導入に際しまして、より便利なサービスとなるよう、ご意見をお聞かせ下さい。

※本事業は、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業」の活用を予定しております。

ＩＣカードシステムの概要

バス（公共交通機関）を利用する際、乗車・降車時に読取機（ＩＣリーダー）にＩＣカードをタッチして情報を読み取らせるだけで簡単にご利用出来る、運賃支払いシステムです。

※ＰｉＴａＰａ・ＩＣＯＣＡにも対応

平成２５年３月２３日から、交通系ＩＣカードの全国相互利用が実施されており、１枚のＩＣカードで、ＰｉＴａＰａ・ＩＣＯＣＡエリアの他、関東のｓｕｉｃａ・ＰＡＳＭＯエリア等のほぼ全国をカバーする他社局の鉄道・バスが利用出来ます。

●相互利用可能な交通系ＩＣカード（鉄道・バス）



導入計画（平成２５～２６年度）

- ◆平成２５年度：導入営業所（ 堺 、 金岡 、 東山 ） 導入車両（ 約１９０両 ）
- ◆平成２６年度：導入営業所（ 泉北、河内長野、光明池 ） 導入車両（ 約２３０両 ）
- ◆本事業は、関係する自治体の協力を得ながら導入を促進するものです。

（次のページもご覧ください。）

ＩＣカードシステムの導入についてのご意見

導入に際しまして、より便利なサービスとなるよう、ご意見をお寄せ下さい。

お寄せ頂いたご意見は、内容を公表させて頂く場合がありますので、予めご了承願います。また、頂戴致しましたご意見に対する、個別の回答は致しかねますので、併せてご了承をお願い致します。

【ご意見送付方法】 郵送、ＦＡＸ、Ｅメール

※Ｅメールの場合は、Ｅメールにファイルを添付して送信してください。

※この用紙の他、葉書に記載頂いても結構です。

【ご意見送付先】 〒５９０－０９７２ 堺市堺区竜神橋町１－２－１１

南海バス株式会社 ＩＣご意見係

〔ＦＡＸ〕 ０７２－２２１－１０３７

〔Ｅメールアドレス〕nankaibus.kikakuka@nankai.co.jp

※平成２６年２月２８日（金曜日）〔必着〕迄にご送付下さい。

ご意見記載欄

バス（公共交通機関）をご利用の際の更なるサービス（料金・割引制度）の充実、利用機会の向上、公共交通機関を利用しやすい環境づくり等、幅広くご意見ください。（例えばバスロケーションシステム〔*〕）

*：バスロケーションシステムとは、ＧＰＳ等を用いてバスの位置情報を収集し、携帯電話等に情報提供するシステムです。こ

れにより、渋滞や雨などの理由によりバスが遅れているときのバス待ちのイライラを解消できます。

お問い合わせ 企画課 ０７２－２２１－０９２６【９：００～１７：３０／土・休日除く】

平成 26 年 3 月 11 日

南海バス株式会社

ＩＣカードシステムの導入に伴う、河内長野市内のメリット

- ▼関西における共通ＩＣカードシステムの「ＰｉＴａＰａ」「ＩＣＯＣＡ」をはじめ、全国相互利用サービスに対応する主な交通系ＩＣカード（例：首都圏における「Ｓｕｉｃａ」「ＰＡＳＭＯ」など）に対応しており、河内長野市内公共交通をご利用のたびに小銭の準備や切符の購入が不要となり、南海電車・近鉄電車・当社バスを１枚のカードで乗車可能となり、市内公共交通機関の利便性が大幅に向上いたします。
- ▼全てのＩＣカードのご利用に対し、現在なんかいバスカードで実施しております「バス乗り継ぎ割引」を適用いたします。バスを連続乗車される場合で、１回目の精算から２回目の精算までの間が２時間以内の場合、大人 50 円（小児 20 円）割引いたします。なお、ＩＣカードでの「バス乗り継ぎ割引」については、南海バスと堺市内を運行する阪堺電車との連続乗車にも適用いたします。
- ▼「ＰｉＴａＰａ」カードでのご利用に対し、なんかいバスカード 3,000 円・5,000 円カードと同じ割引率（10.7%）を自動的に適用いたします。なんかいバスカードをその都度購入したり、残額を気にしたりする手間がなくなります。
 - ※例えば、月の南海バスご利用が 1,000 円分なら、893 円のご請求となります。
 - ※月のご利用が 1 回だけであっても割引適用いたします。
 - （例：220 円区間を 1 回乗車の場合→196 円のご請求となります）
- ▼ＩＣシステム導入により、南海バス運行エリア・さらには市内エリアを対象にした独自のサービス展開など、利用促進に向けた様々な施策の可能性が広がります。
 - （例：「ＰｉＴａＰａ」カードでのご利用のみに適用の「登録型割引」など）
 - 特定の地区でのご利用に対し、ご利用の多い月は 6 ヶ月定期の 1/6 を上限額とし、少ない月はなんかいバスカードと同じ割引率（10.7%）を適用。
 - ※別途登録が必要です。
 - ※26 年 4 月 1 日より、堺市内特定エリアで実施予定です「堺ミニプラン」。
- ▼多くのＩＣカード自体が電子マネー機能を備えており、カード利用普及の拡大とともに、市内における消費活動や観光振興の活性化が大いに期待できます。

【参考】「ＰｉＴａＰａ」について

「ＰｉＴａＰａ」は、カード１枚で電車・バスやショッピング、グルメ等のお支払いに使える簡単・便利なポストペイ（後払い）式のＩＣ決済サービスです。

地域公共交通確保維持改善事業～生活交通サバイバル戦略～

25年度予算額 333億円
(対前年度比1.00)

地域公共交通確保維持事業

- ・ 存続が危機に瀕している生活交通のネットワークについて、地域のニーズを踏まえた最適な交通手段であるバス交通、デマンド交通、離島航路・航空路の確保維持のため、地域の多様な関係者による議論を経た地域の交通に関する計画等に基づき実施される取組みを支援

＜効率運行(航)を前提に、事前に算定された収支差を補助。離島航路、離島航空路の島民割引運賃の取組等も補助。＞

○都道府県を主体とした協議会の取組みを支援

： 地域をまたがる幹線バス交通ネットワーク、離島航路・離島航空路の確保・維持 等

○市町村を主体とした協議会の取組みを支援

： 幹線バス交通等幹線交通ネットワークと密接な地域内のバス交通・デマンド交通等の確保・維持 等

○東日本大震災被災地域における幹線バス交通ネットワーク等の確保・維持の取組について、特例措置により支援(※)



地域公共交通バリア解消促進等事業

- ・ 個別のモードごとの支援から公共交通のバリアフリー化等を一体的に支援する制度

バリアフリー化

バス、タクシー、旅客船、
鉄道駅、旅客
ターミナルの
バリアフリー化
等を支援



利用環境の改善

バリアフリー化されたまちづくりの
一環として、LRT、BRT、ICカード
の導入等公共交通
の利用環境改善
を支援



地域鉄道の 安全性の向上

地域鉄道の安全性
向上に資する設備
整備等を支援

地域公共交通 調査等事業

- ・ 地域の公共交通の確保・維持・改善に資する調査支援
- ・ 地域ぐるみの利用促進に資する取組みを支援
- ・ 東日本大震災被災地域における地域内の生活交通の確保・維持のあり方について、特例措置により支援(※)

(※) 東日本大震災の被災地域におけるバス交通等生活交通の確保・維持のため、復旧・復興対策に係る経費として、復興庁に計上される27億円を含む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域協働推進事業)

平成26年 月 日

協議会名:河内長野市地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
地域に合った公共交通の試行運行の検討 ⇒【地域において日頃の移動に不便を感じている方々の移動手段の確保に向け、現状を把握し、問題点の整理や解決策の検討を行うことを目的とする勉強会の開催を希望する団体を募集した。】	B	事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	勉強会などを通じて、地域とともに、地域に合った公共交通についての協議を進め、地域主体の公共交通の試行運行を検討する。
バス利用の手引き・バスマップの作成、配布 ⇒【「河内長野市バスマップ」(1部5枚綴り・クリアファイル入り)を50,000部作成し、平成25年の11月号広報紙に折り込み全戸配布するとともに、転入者に窓口にて配布した。】	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	河内長野市地域公共交通会議にて、今年度の実績を踏まえ、さらなる協議、検討を進め、作成、配布する。
企画乗車券の周知・広報 ⇒【「河内長野市バス旅ガイド」(チラシ)を5,000部作成し、駅、観光案内所、観光施設、公共施設などにて配布した。】	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	河内長野市地域公共交通会議にて、今年度の実績を踏まえ、さらなる協議、検討を進め、作成、配布する。
有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図の作成、配布 ⇒【「河内長野市バスマップ」にて、コミュニティバスのルート、運賃などの情報を掲載した。】	B	事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	河内長野市地域公共交通会議にて、バスマップと併せて、協議、検討を進め、作成、配布する。

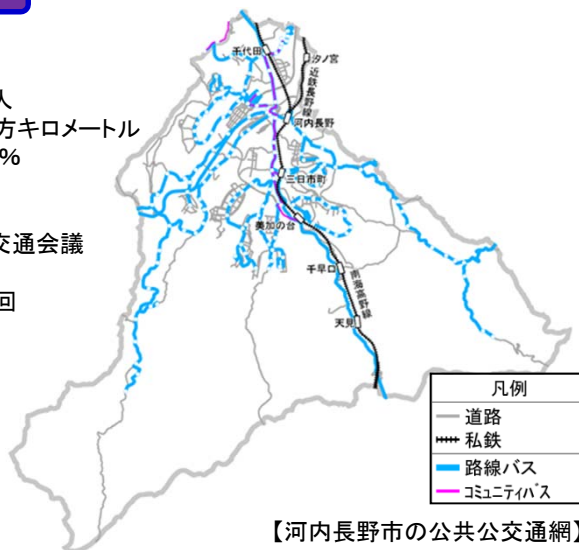
協働推進事業の概要

- 河内長野市における公共交通をとりまく課題
 - ・公共交通利用者数の減少
 - ・公共交通空白・不便地域の存在
 - ・まちづくりとの連携
- 協働推進事業を実施する必要性

持続可能な公共交通を確保するためには、地域の関係者（行政、事業者、住民、地元商業施設等）が協働・連携しながら公共交通の利用促進につながる取り組みを進める必要がある。
- 協働推進事業実施に際しての定量的目標
 - ・現状（平成23年度）のバス利用者数以上を確保
- 事業内容・事業結果
 - ・地域に合った公共交通の試行運行の検討（一部実施）
 - ・バス利用の手引き・バスマップの作成、配布（実施）
 - ・観光資源と路線バスを活用した取り組みの実施（実施）
 - ・有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図の作成、配布（一部実施）

参考資料

- ・河内長野市の概要
 - 【人口】112,096人
 - 【面積】109.61平方キロメートル
 - 【高齢化率】28.3%（平成26年1月）
- ・河内長野市地域公共交通会議開催状況
 - 【平成25年度】5回



具体的取り組みに対する評価

- 公共交通利用促進の取り組み
 - ・地域において日頃の移動に不便を感じている方々の移動手段の確保に向け、現状を把握し、問題点の整理や解決策の検討を行うことを目的とする勉強会の開催を希望する団体を募集した。
 - ・「河内長野市バスマップ」(1部5枚綴り・クリアファイル入り)を50,000部作成し、平成25年の11月号広報紙に折り込み全戸配布するとともに、転入者に窓口にて配布した。
 - ・「河内長野市バス旅ガイド」(チラシ)を5,000部作成し、駅、観光案内所、観光施設、公共施設などにて配布した。
 - ・「河内長野市バスマップ」にて、コミュニティバスのルート、運賃などの情報を掲載した。

評価から得られた課題、対応

- 実施事業の今後の対応
 - ・勉強会などを通じて、地域とともに、地域に合った公共交通についての協議を進め、地域主体の公共交通の試行運行を検討する。
 - ・バスマップ、チラシについては、河内長野市地域公共交通会議にて、今年度の実績を踏まえ、さらなる協議、検討を進め、作成、配布する。
 - ・有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図については、河内長野市地域公共交通会議にて、バスマップと併せて、協議、検討を進め、作成、配布する。

アピールポイント(特に工夫した点)

- 「河内長野市バスマップ」
 - ・各家庭で掲示できるよう、バスと接続可能な鉄道駅ごとに分けて、A3サイズのマップを作成した。
 - ・公共施設だけでなく、病院や商業施設など、住民が日常使う施設についても、可能な限り掲載した。
- 「河内長野市バス旅ガイド」(チラシ)
 - ・路線バス利用者への特典を設けるなど、観光施設と路線バスを活用し、バスの利用促進を図った。

生活交通ネットワーク計画への影響

- 「河内長野市バスマップ」を作成、全戸配布することにより、公共交通利用促進の啓発を図った。
- 「河内長野市バス旅ガイド」(チラシ)を作成、配布することにより、観光との連携によるバスの利用促進を図った。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

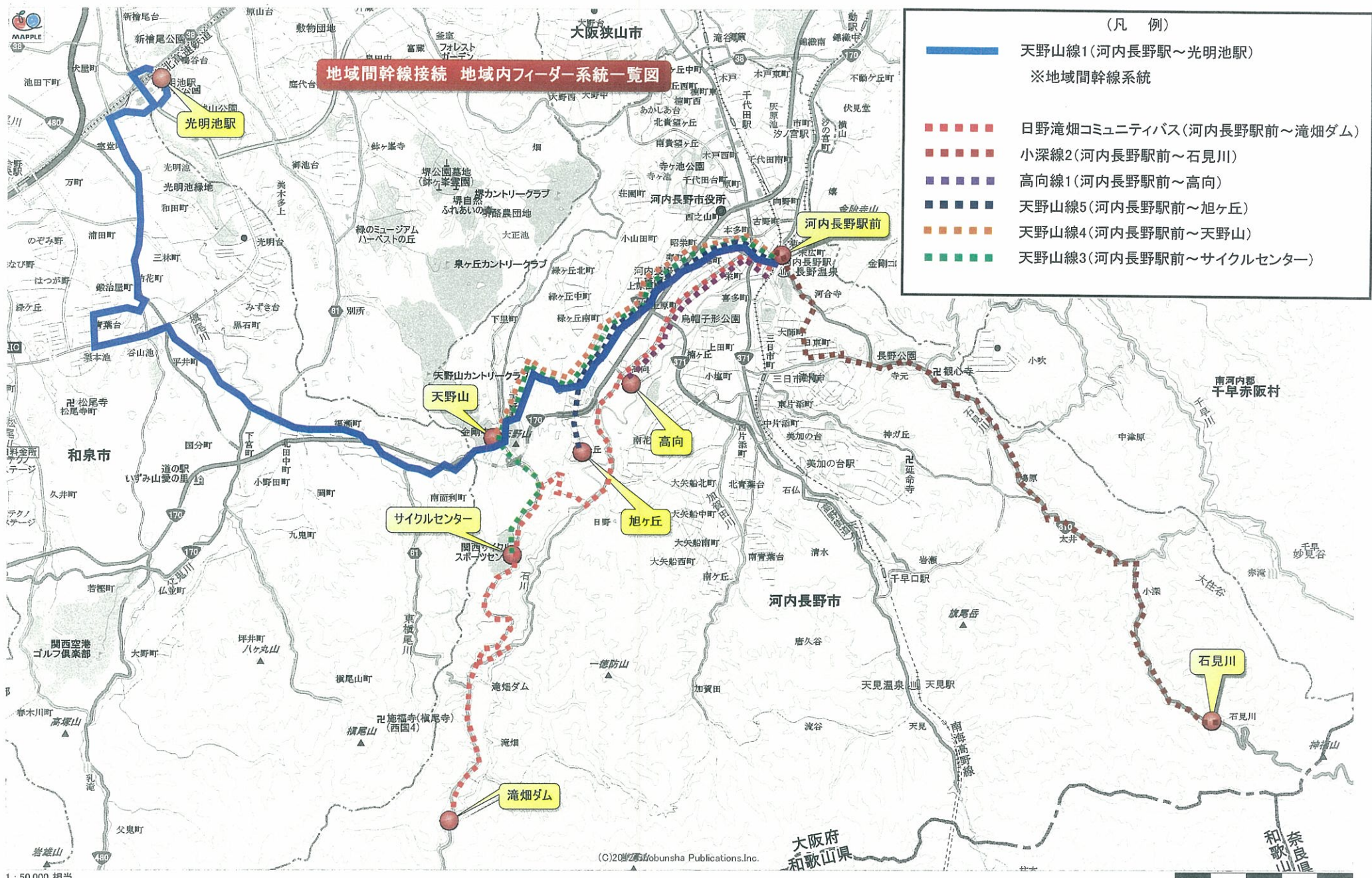
資料4-3

平成26年 月 日

協議会名:河内長野市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 (対前年度比)	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス	初めての事業評価のため、前 回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状 維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増 加:100%→(実績)105.7%で達 成	実施した公共交通利用の利用 促進につながる取り組み(見や すいホームページの構成、 Facebookの情報掲載)について は、内容の充実を図るととも に、「第2期河内長野市地域公 共交通総合連携計画」及び「地 域協働推進事業」等に基づく、 バスマップや観光チラシの作 成・配布、地域でのワークショッ プの実施、日野・滝畑コミュニ ティバスの運行ルートの見直し など様々な公共交通の利用促 進につながる取り組みを実施し ていく。
南海バス株式会社	路線バス小深線2(石見川系 統)	初めての事業評価のため、前 回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状 維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増 加:92%→(実績)94.9%で達成	
南海バス株式会社	路線バス高向線1(高向起終 点系統)	初めての事業評価のため、前 回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状 維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増 加:101%→(実績)68%で未達 成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線5(旭ヶ丘系 統)	初めての事業評価のため、前 回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状 維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増 加:99%→(実績)86.7%で未達 成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線4(天野山起 終点系統)	初めての事業評価のため、前 回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状 維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増 加:104%→(実績)79.9%で未 達成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線3(サイクル センター系統)	初めての事業評価のため、前 回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状 維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増 加:82%→(実績)128.5%で達 成	



事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成26年 月 日

協議会名：	河内長野市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	公共交通は市民生活を支える大切な交通手段であるが、人口減少や少子高齢化、自動車への過度の依存などの要因により、路線バスやコミュニティバス等の公共交通利用者が年々減少を続けており、持続可能な公共交通を確保することが極めて厳しい状況にある。 そのため、住民、交通事業者、行政などの関係者による協働の取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・発展を図ることを目的とする。

河内長野市地域公共交通会議

資料4-5

事業名：平成25年度地域内フィーダー系統

目的 計画 目標 (P)

- 事業の目的
公共交通の利用促進につながる取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・発展を図る。
- 事業内容
 - ・バスマップの作成、配布
 - ・地域でのワークショップの実施
 - ・市の公式HPの充実やSNSを活用した情報発信
- 定量的な目標(各路線における対前年度比)
 - ・運行回数の維持
 - ・輸送人員の減少幅の抑制もしくは増加

概要図・参考資料

- ・河内長野市の概要
 - 【人口】 112,096 人
 - 【面積】 109.61平方キロメートル
 - 【高齢化率】 28.3 %
(平成26年1月)
- ・河内長野市地域公共交通会議
開催状況
【平成25年度】 5回



具体的取り組み (D)

- 公共交通利用促進の取り組みを実施(平成25年8月～9月)
 - ・市ホームページの内容をスマートフォンからも見やすいページ構成に変更した。
 - ・SNSを活用した取り組みとして、市Facebookにコミュニティバスの時刻表、運賃表などの情報を掲載した。

取り組みに対する評価 (C)

- 目標達成状況(平成25年8月～9月)
 - ・運行回数: 対象の6系統全てで運行回数の維持ができ、目標を達成した。
 - ・輸送人員: 対象6系統のうち、1系統は減少幅が抑制、2系統は増加したことにより、計3系統において目標を達成したが、残り3系統については、減少したことにより、目標を達成できなかった。
- ※その理由として、2ヶ月間という短い期間のため、実施した公共交通の利用促進につながる取り組みの効果が十分に出ていなかったと考える。

自己評価から得られた課題、対応 (A)

- 今後の対応
 - ・実施した公共交通の利用促進につながる取り組み(見やすいホームページの構成、Facebookの情報掲載)については、さらなる内容の充実を図る。
 - ・「第2期河内長野市地域公共交通総合連携計画」及び「地域協働推進事業」等に基づく、バスマップの作成・配布、観光チラシの作成・配布、地域でのワークショップの実施、日野・滝畑コミュニティバスの運行ルートの見直しなど様々な公共交通の利用促進につながる取り組みを実施する。

アピールポイント、特に工夫した点など

- コミュニティバスのルート、時刻表、運賃などの情報を、全て同じページにまとめることで、スマートフォンからも見やすいページを作成した。
- Facebookを活用することにより、公共交通の利用が少ない若年層の利用促進を図った。

バス旅 ガイド

観光版

河内長野



南海バスで
でかけよう!



天野山金剛寺

「天野行宮」とも呼ばれ多くの国宝や重要文化財があり、とくに室町時代につくられた庭園は春の桜、秋の紅葉と四季を通じて美しいです。



大阪府立花の文化園

約10haの敷地に装飾花壇、花のつぼみを型どった大温室、イベントホールや花の工房など、いろいろな施設があります。大人も子供もホッと一息できる楽しい自然空間です。



観心寺

楠木正成幼少の頃の学問所でもあり、南朝ゆかりの寺として、また春の梅や桜、秋の紅葉としても有名です。広い境内には、国宝の金堂をはじめ、楠公建掛塔などの重要文化財が多数あります。



延命寺

弘法大師が地藏菩薩を刻んで安置したのが起源と伝えられるこの寺は、紅葉の名所としても有名。特に樹齢1000年とも言われるカエデの巨木は、「夕照もみじ」と呼ばれ、府の天然記念物に指定されています。



岩湧山

岩湧山は、金剛生駒紀泉国定公園内にあり、河内長野市を代表する標高897.7mの山です。山頂一帯にはキトラと呼ばれるススキの草原が広がり、大阪平野から六甲山系までの大パノラマが楽しめます。



滝畑ダム

ダムによってうまれた人工湖には毎年多くの渡り鳥が飛来し、とくにオシドリは毎年10月下旬頃から翌年3月初旬頃まで滞留して優美な姿を見せます。



関西サイクルスポーツセンター

変わり種を含めたいろんな形の自転車に乗れたり、いろいろなアトラクションがあってファミリーで楽しめます。また森に囲まれたキャンプ場では、日帰りで飯盒炊爨や、バーベキューを楽しめ、宿泊キャンプもでき、大自然を満喫できます。

バスでのアクセス方法



オススメ ワイドモックルカードなら
1日バス乗り放題でロープウェイ10%割引付!!
※詳しくは裏面へ

[※]は平成26年4月以降の運賃



便利でお得な乗り放題! 1日フリーカード バス限定

河内長野市内(限定) モックルカード



発売額

おとな
600円

こども
300円

発売場所

- バス車内
- アンスリー河内長野店
- 南海バス河内長野営業所
- 河内長野定期券発売所

大阪府立花の文化園



入園料

100円off!!

開園時間: 午前10時~午後5時
(12、1月は午後4時まで)
※入園は閉園の1時間前まで
休園日: 月曜日(休日の場合翌日)
年末年始(12/28~1/4)
TEL: 0721-63-8739

関西サイクル スポーツセンター



入場料 通常 800円が

平成26年
4月6日までの
期間限定 **無料!!**

開園時間/午前10時~午後5時
(季節により変動あり)
定休日/火曜日
(春休み期間は無休営業)
TEL 0721-54-3101

乗車券有効区間

- 南海バス路線 ● 点線はワイドモックルカードのみ有効
- モックルコミュニティバス路線
- 日野・滝畑コミュニティバス路線



河内長野+千早赤阪村

ワイドモックルカード

千早赤阪エリアもカバーした
「河内長野・千早赤阪ワイドモックルカード」
も好評発売中です!

おとな 850円
こども 430円

発売場所

- アンスリー河内長野店
- 南海バス河内長野営業所



金剛山ロープウェイ
10%割引の特典付!

その他の
おトクな
カード

なんかいバスカード

2,000円
(2,200円分)

3,000円
(3,360円分)

5,000円
(5,600円分)

昼間割引カード

- 平日は10:00~16:00
- 土日祝は終日有効

3,000円
(3,600円分)

なんかいバス
キッズカード

1,000円
(1,100円分)

発売場所 ● バス車内 ● 堺東案内所 ● 南海バス定期券発売所
● 南海バス各営業所(南海高速バスセンターを除く) ● その他南海バスカード委託販売箇所

お問い合わせ

南海バス 河内長野営業所 TEL 0721-53-9043

発行

河内長野市地域公共交通会議